

⑬ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭56—32233

⑤ Int. Cl.³
B 65 D 25/04

識別記号

庁内整理番号
6686—3E

⑬ 公開 昭和56年(1981)4月1日

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 3 頁)

⑭ 伍 詰

松戸市秋山46番地

⑮ 特 願 昭54—101523

⑯ 出 願 人 石村正文

⑰ 出 願 昭54(1979)8月8日

松戸市秋山46番地

⑱ 発 明 者 石村正文

⑲ 代 理 人 弁理士 山本彰司

明 細 書

1. 発明の名称

伍 詰

2. 特許請求の範囲

- (1) 内部に仕切壁が設けられ、適数の隔室が構成されてなることを特徴とする伍詰。
- (2) 仕切壁が内径より小さな円筒であることを特徴とする特許請求の範囲が1項記載の伍詰。

3. 発明の詳細な説明

本発明は内部に二種類以上の食物を全く分離して充填できる伍詰に関するもので、ピクニック等の外出時の携帯に便利であることを特徴とするものである。

本発明はまた、二種類以上のものを組合せ一種の料理とするもの、例えばカレーライスにおけるカレーとライス等を同一の伍内に収納しておくことができ、取扱いも容易で極めて有効であるものである。

従来、伍詰の製造に際しては胴部、上蓋及び下蓋を構成し、胴部と一方の蓋、例えば上蓋を

シーマーといわれる機械を使用して巻き締め、逆にして内部に必要な食物を詰め、絞函蓋(レトルト)で適当温度に加熱し、つぎにバキュームシーマーにより下蓋を取付け、再び絞函蓋で高温に加熱している。

本発明では胴部に最初に取付ける蓋に予め仕切壁を溶接等により取付け、胴部と上記蓋を巻き締め、さらに胴部の内筒と当接する仕切壁部を溶接し、その後に必要な食物を詰め、以後従来と同様に他方の蓋を取付けるものであるが、仕切壁と他方の蓋との接触部に気密効果をもたせるため、仕切壁の上方に彎曲部を構成し、他方の蓋側には該彎曲部と適合する凹溝を構成し、彎曲部と凹溝を圧接するものである。

本発明における上記仕切壁は直線状の分割壁としてもよく、また、中心部から放射状に設けてもよく、さらには胴部の内径より小さな円筒としてもよい。

仕切壁を胴部の内径より小さな円筒とした場合には仕切壁と胴部とが当接する箇所がないた

め仕切壁と胴部を溶接する必要がなく、極めて製作が容易であり、蓋を取外す場合にも仕切壁が邪魔にならない効果がある。

以下に本発明の一実施例を図面について詳細に説明する。

才1図、才2図には仕切壁(1)を中心部から放射状に設けた例が示されている。すなわち、上蓋(2)に放射状の仕切壁(1)を予め溶接する。本発明では仕切壁(1)の上端にそれぞれ彎曲部(3)が構成される。そして仕切壁(1)の外径は当然のことながら、胴部(4)の内周に当接する大きさに構成される。

つぎに胴部(4)に上記仕切壁(1)を有する上蓋(2)が巻き締められ、つぎに胴部(4)の内周と仕切壁(1)との当接部が溶接される。なお、上記仕切壁(1)の彎曲部(3)の中心集合部は間隙が生じないよう溶付けを施すことが望ましい。

つぎに、下蓋(5)には上記仕切壁(1)の上方の彎曲部(3)と適合する凹溝(6)が予めプレス等により設けられ、食物を詰めたるち、彎曲部(3)と凹溝

- 3 -

の食物を全く分離して充填でき、外出時の携帯が便利である効果を有し、特に仕切壁を胴部の内径より小さな円筒とすると、すでに述べたごとく、極めて製作が容易であり、蓋を取外す場合も仕切壁が邪魔にならない効果があるものである。

すなわち、仕切壁を直線状あるいは中心部から放射状に設けると蓋を取外す場合に仕切壁と胴部の間も切断する必要があり、力を必要とするが、仕切壁を胴部の内径より小さな円筒とすると、そのようなことがないものである。

なお、蓋を開く方式として飲料用缶に使用されているいわゆるプルトップ方式を採用してもよい。

4. 図面の簡単な説明

図面は本発明の一実施例を示すもので、才1図はその斜視図、才2図は分解斜視図、才3図は才1図のX-X線断面図、才4図は他の実施例を示す分解斜視図である。

(1)(1')...仕切壁、(2)(2')...上蓋、(3)(3')...彎

- 5 -

特開昭56- 32233(2)

(6)を適合させて巻き締めればよいものである。

才4図には仕切壁(1')として、胴部(4')の内径より小さな円筒を使用した例が示されている。この場合には上記仕切壁(1')は例えば上蓋(2')の適位置に予め溶接しておくだけでよく、胴部(4')との溶接が不要である。

この場合も仕切壁(1')の上端には上記仕切壁(1)と同様構成の彎曲部(3')が構成され、下蓋(5')にはそれと適合する円形の凹溝(6')が予め構成されている。したがって、製造工程としては従来と全く同様でよい。

上記構成の本発明にあつては仕切壁(1)あるいは(1')により内部に適数の隔壁(a)(b)(c)あるいは(d)(e)が構成され、その間の気密は才3図示のごとく、仕切壁(1)あるいは(1')の彎曲部(3)あるいは(3')と下蓋(5)あるいは(5')の凹溝(6)あるいは(6')とが面として圧接されることにより保持されるものであり、極めて優れた効果を有するものである。

上記のごとく、本発明は内部に仕切壁を設け、適数の隔壁を構成したものであり、二種類以上

- 4 -

曲部、(4)(4')...胴部、(5)(5')...下蓋、(6)(6')...凹溝、(a)(b)(c)(d)(e)...隔壁。

特許出願人

石 村 正 文

代理人 井 理 士

山 本 彰 司

- 6 -

図 1

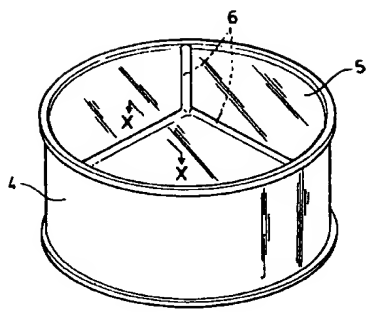


図 3

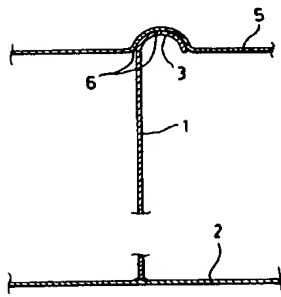


図 2

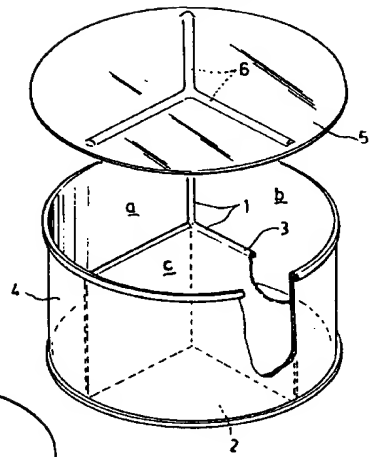


図 4

